

第17回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日 時：平成27年6月2日（火）14：00～16：00

2 場 所：総務省10階1002会議室
千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館

3 出席者：（委員）

- ◎ 亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）
- 黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）
- 兼川 真紀（弁護士）
- 斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）
- 名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

長屋 聡 官房審議官
加瀬 徳幸 管理室長
両角 明 企画官

4 議事次第

- （1）「平成26年度平和祈念展示資料館 運営業務実施報告書」について
- （2）「平成27年度平和祈念展示資料館 運営業務のポイント」について
- （3）「平成27年度平和祈念展示資料館 運営業務実施計画」について

5 議事要旨

- （1）「平成26年度平和祈念展示資料館 運営業務実施報告書」について委託事業者から説明後、意見交換が行われた。
- （2）「平成27年度平和祈念展示資料館 運営業務のポイント」について資料2に基づき、事務局から説明が行われた。
- （3）「平成27年度平和祈念展示資料館 運営業務実施計画」について委託事業者から説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 他館との交流展を企画する場合は、展示内容の性格・趣旨などに配慮しながら実施していただきたい。
- インターンシップや学芸員課程の博物館実習を受け入れることは、大学と連携していく形ができあがり、関係者を通じて若者の来館も増えるだろう。
- 夏休みイベントなどで好評だった企画は、年1回といわず、継続して実施してもよいのではないか。
- 夏休みイベントについて、大学生や高校生が参加する企画は良い。参加した若者が、何らかの形でつながるようなイベントになるよう工夫していただきたい。
- 新聞の読者層を考えると、全国紙各紙で広報展開を行ってみてもよいのではないか。子ども新聞なども良いだろう。
- 日本への外国人観光客は年々増えているが、外国人観光客への対応マニュアルやガイドなどの作成を検討してはどうか。
- 「語り部お話し会」は盛況になっていると聞いている。宣伝も含め、大変よくやっていたらと思う。
- 小学校、中学校の来館者数を増やすためにも、旅行代理店の修学旅行向けの企画に入れてもらうよう働きかけてはどうか。
- さまざまな広報活動を行っているが、苦労も多いだろう。広報は費用がかかるので、年々予算が削減される中で苦労も多いだろうが、引き続き頑張っていたきたい。
- ツイッターをうまく利用し、若い人たちに働きかけを行うことにより、ネットワークを広げることが可能になるのではないか。